

新たなアルツハイマー型認知症治療薬の導入

抗アミロイドβ抗体薬

『内閣府・令和6年版高齢社会白書』によると、2025年認知症患者は471万人、2060年には645万人になると予想されます。65歳以上の高齢者の13%が認知症を発症する計算で、軽度認知障害（MCI）も含めると65歳以上の3人に1人は認知症とその予備軍と言われています。



抗アミロイドβ抗体薬はこれまでの認知症治療薬とは違い、アルツハイマー型認知症の原因物質（アミロイドβ）に直接作用し、蓄積したアミロイドβのかたまりを除去する効果があります。それにより認知症の進行を抑制することが期待されます。当院でも昨年より導入しております。点滴薬なので点滴の間、家族の付き添いが必要なこと、色々な検査が必要なこと、高額な治療費などまだ課題はありますが、アルツハイマー型認知症の原因に働きかけて進行自体を抑制する初めての薬として注目されています。

心理社会療法の実践

回想法



回想法とは、昔の懐かしい物や写真、音楽などに触れ、その時の思い出や経験などを他者とともに語り合う心理療法です。当院では、作業療法士と臨床心理士が担当し、集団での回想法を週に1回実施しています。患者様個々の特性や目標に応じて、対象者8名を選定して、8回1クールで行っています。集団活動や作業に取り組むことが苦手な方でも、過去の記憶を想起できる方であれば、声を掛けて参加してもらっています。

家族や仕事のこと、ふるさとや季節の話題など、毎回、テーマを決めて取り組んでいます。スタッフと

密に関わることやその場に属することで、精神症状が安定され、入院生活に安心感が得られる方もおられます。そのため、過去のことを振り返る中で、他者との時間を共有することや共感が得られることを大切にしています。

認知症リハビリテーション

認知症病棟では、回想法のほかに、作業療法や理学療法といったリハビリテーションも行っています。

作業療法では、毎日何らかの創作活動や運動、ゲームや合唱などのプログラムに取り組んでいます。集団での作業療法だけでなく、週2日で個別作業療法も行っています。また、身体的なリハビリテーションとして、理学療法士も介入しています。運動機能の維持や向上を目指してリハビリに取り組んでいます。

なお、病棟には専従の作業療法士が配置されており、日々のリハビリの状況を医師や看護師などの他職種とも共有しながら治療に当たっています。

